

地域社会とのつながり

当社では、CSR推進協会議（TAGミーティング）を中心に、おくすり教室、寄付活動、障害者支援、地域貢献・交流の4つのテーマを通じて、地域社会とのつながりを大切にした取り組みを進めています。

おくすり教室

薬の服用にあたっては、定められた飲み方を守ることが必要です。飲むタイミングを誤って理解していたり、適切ではない飲み方をしてしまったりと、十分な効果が得られない場合があります。また、誤った使用は副作用を引き起こす原因となる可能性があります。

当社では、薬をより安全かつ効果的に使用していただくためには、基本的な知識をわかりやすく伝えることが大切であると考えています。早い段階から正しい飲み方を知ることが、日常生活の中での理解につながるものと考えています。このような考えのもと、CSR活動の一環としてTAGチームを中心に「おくすり教室」の取り組みをおこなっています。

2025年11月には、近隣の小学校の校外学習に協力し、当社大宮第二工場の工場見学とあわせて「おくすりの工場を見学してみよう」「くすりを飲む時間の話」といった動画を活用しながら、薬がどのように作られているか、また服用時間や用法を守ることの大切さについて、解説しました。

教室内では、「一日にどれくらい薬は作られるのですか」といった具体的な質問が寄せられたほか、クイズの際は児童が自らの考えを積極的に発言していました。また、解説を通じて正しい知識との違いに気づき、理解を深めていく様子も見受けられました。

今後も、こうした取り組みを通じて、医薬品への理解につながるよう努めています。



工場見学の様子



おくすり教室の様子

担当者の声（大宮工場 工場管理課）

活動前は既存資料で十分に伝えられると考えていましたが、実際におくすり教室を行う中で「どう伝えるか」を意識するようになりました。小学校3年生にも分かりやすい表現を検討し、「食後・食前・食間・頓服」といった用語の説明方法を見直すとともに、クイズ形式を取り入れた動画作成に取り組みました。説明役として言葉の選び方に悩む場面もありましたが、児童の反応を通じて、伝え方を工夫することの重要性を実感しました。今後も試行錯誤を重ね、より適切な情報発信の在り方を追求していきます。

本活動で使用した動画は、当社公式YouTubeチャンネルにて公開しております。是非ご視聴ください。

 /【公式】高田製薬株式会社



寄付型自動販売機 第四回寄付のご報告

当社では、本社に寄付型自動販売機を設置し、飲料購入を通じた社会貢献活動を行っています。本自動販売機では、対象商品の売上の一部が寄付として積み立てられ、「こどもの未来応援基金」へ寄付されます。

【実績】

期間：2025 年4 月～2026 年3 月

対象商品購入総数：延べ671 本

寄付先：独立行政法人福祉医療機構こどもの未来応援基金※

(<https://www.wam.go.jp/hp/cat/kodomomiraikikin/>)

※同基金は、独立行政法人福祉医療機構が「こどもの未来応援国民運動推進事務局」の一員として、内閣府、文部科学省、厚生労働省と連携し、こどもの貧困対策の推進を目的に運営されています。

寄付先については、当社が小児用医薬品に取り組んでいることを踏まえ、子供を支援する取り組みに貢献できる団体としてTAG チームにて選定しました。

本取り組みは、従業員が日常的に参加できる社会貢献活動の一つであり、身近な行動を通じて社会とのつながりを実感できる機会となっています。今後もこうした取り組みを継続していきます。



寄付型自動販売機

発達わんぱく会への寄贈

当社では、従業員から集めたシール・折り紙・メモ用紙、鉛筆を、認定NPO法人発達わんぱく会へ寄贈しました。

寄贈先：認定NPO 法人 発達わんぱく会

(<https://www.wanpaku.org/index.html>)

同法人は、発達障害の早期発見・早期療育を行う「こころとことばの教室こっこ」を中心に、保護者への相談支援、療育施設の開設・運営支援、保育園・幼稚園への巡回支援など、多面的に活動しています。

本取り組みでは、各拠点に寄贈品収集BOXを設置し、従業員からシールや折り紙、メモ用紙、鉛筆を募りました。集まった寄贈品は、同法人が運営する教室において、子供たちの活動に活用されています。

当社は、子供たちの健やかな成長を支える取り組みへの支援を通じて、地域社会への貢献を推進しています。今後もこのような連携を継続していきます。



寄贈した折り紙やメモ、シール

地域社会とのつながり

フードドライブ活動のご報告

第3回高田製菓フードドライブを、2025年5月19日～6月5日に実施しました。本活動では、各事業所に収集BOXを設置して食品や生活用品を募り、本社に集約した後、(社)さいたま市子ども食堂ネットワークへ寄贈しました。

当社からの寄贈品は、同団体が輪島市で実施した臨時子ども食堂において、食材パントリーおよび生活支援品パントリーとして活用されました。

今後、従業員が参加できる社会貢献活動として本取り組みを推進していきます。

なお、本取り組みは2026年も継続して実施しています。
詳細については、次回の報告にてお知らせします。

※フードドライブとは、家庭で使いきれない未使用品や、余剰食品を集めて寄付する活動です。食料支援や食品ロス削減を目的として行われています。

寄贈先:さいたま市子ども食堂ネットワーク
(<https://sknw.ai-kenchikukoubou.jp/>)



同団体が実施した臨時子ども食堂の様子および報告会ポスター



当社寄贈品

担当者の声（大宮工場 工場管理課）

フードドライブは、当初「あまり集まらないのではないか」と感じていましたが、職場で声をかけことで多くの賛同が集まり、関心の高さを実感しました。また、地域のコンビニエンスストアでも回収BOXを見かけることがあり、身近な活動として広がっていると感じました。今後も周知と参加の輪を広げ、集まった食品などを必要とする方へつなぐ取り組みに貢献していきたいと考えています。

アートを通じた活動支援

当社では、障害のある方々への支援の一環として、障害者アートの活用に取り組んでいます。障害者アートは、創作活動を通じた表現の機会や活動の広がりにつなげるものと考えています。

その具体的な取り組みとして、2024年よりCSR報告書の表紙に障害者アート作品を採用しています。本報告書の表紙には、高谷こずえ様の作品「ガラスえらび」を掲載しています。

本取り組みは、協力団体と連携しながら継続的に実施しています。今後も可能な範囲でこうした活動を続けていきます。

協力先:工房集 <https://kobo-syu.com/>みぬま福祉会 <https://minuma-hukushi.com/>

ご協力いただいた工房集の施設外観



工房内の様子：みぬま福祉会を利用するメンバーの表現活動を
社会につなげる拠点として運営されている福祉施設（2002年開設）

各事業所における地域活動

当社では、各事業所において、地域に根差したさまざまな貢献活動を行っています。

大宮工場および大宮第二工場では、事業所周辺道路が近隣小学校の通学路となっていることから、春・秋の交通安全運動期間を中心に登校時の見守り活動を実施しています。また、小学校の地域探索の際には当社駐車場を休憩場所として提供しているほか、周辺中学校の資源回収に段ボールを提供するなど、学校の取り組みにも協力しています。

献血活動については、埼玉県赤十字血液センターの協力のもと、事業所敷地内において春・冬の年 2 回実施しています。2025年度は12名が参加しました。

幸手工場では、幸手工業団地が実施するクリーン作戦に参加しています。また、市のイベント開催時には当社駐車場の貸し出しを行うなど、地域活動への協力を行っています。

このほか、大宮工場および北埼玉工場では、事業所周辺の清掃活動を定期的実施しており、その様子を2024年10月より「ゴミ拾いSNSピリカ」で発信しています。

さらに、毎年実施されるNHK歳末たすけあい共同募金には、全事業所で参加しています。

今後も地域とのつながりを大切にしながら、地域社会への貢献につながる活動を継続していきます。

